



米テスラ・モーターズ社による講演会を開催

JEITAでは、平成28年度重点事業の一つに「情報発信の強化」を掲げ、「グローバルマーケットの把握」に努めています。その一環として、世界的な環境・エネルギー課題に対して果敢に挑戦している米テスラ・モーターズ社から、バッテリーテクノロジー部門ディレクターのカート・ケルティ氏をお招きし、講演会を行いました。電子部品部と関西支部・部品運営委員会の合同企画により、6月2日(木)に東京・有明のパナソニックセンター東京で開催し、80名を超える会員企業トップ・幹部のご参加がありました。



カート・ケルティ氏



講演会の様子

講演概要

テスラ・モーターズ社について

同社は2003年に設立、08年に第1号車を発売。「持続可能なエネルギーへ、世界の進行を加速する」というミッションの下、「EVは遅い、デザインが冴えない」というイメージを覆し、セクシーで速い車として高く評価され、16年第1四半期の米国プレミアムカー市場では29%のシェアを獲得しています。

バッテリー関連動向

バッテリーの需要は急拡大しており、20年にはテスラ車だけで50万台分に及び、13年における全EVのバッテリー数を上回ります。テスラでは、ネバダ州に年間35GWhのセルを生産できる「ギガ・ファクトリー」を建設中で、本年末に始動の予定です。ソーラー発電を主と

するゼロエミッション工場で、電池の小型化を迫り、コストも3割以上の削減を見込んでいます。セル、モジュール、パッケージ、さらには車以外の家庭用・業務用蓄電システムも手がけ、拡大を図っています。

今後の展開

顧客サポート体制も強化しており、世界で625ヶ所以上の充電ステーション、3,750台の急速充電器を配置済みで、テスラ車ユーザーは無料で使用できます。購入後も、ソフトのバージョンアップにより「昨日より新しい車を手に入れる」ことができ、顧客満足につながっています。安全を最優先に考えながら、自動運転やスマートフォンによる運転もすでに実現しています。当面は、世界9,000万台の内「EVで0.2%」を目標に事業を展開しています。

質疑等

講演後には、今後の地域展開、特許関連の施策方針、ソフトバージョンアップに対する各国認可規制の課題、バッテリーのリサイクル等、幅広い質疑応答が交わされました。また、講演会后、最新モデルによる試乗会を行い、すぐれた加速性能と静粛性を体感することができました。自動縦列駐車やスマートフォンによる走行のデモの他、パナソニックセンター東京の「Wonder Life Box」視察や「Technics」オーディオの試聴も行い、いずれも大変好評でした。



最新モデルによる試乗会